

日米共同情報分析組織（B I A C）の陸上自衛隊座間 駐屯地への移転に伴う施設整備について

このことについて、本日、防衛省南関東防衛局から次のとおり説明がありましたので、お知らせします。

- 現在、在日米軍横田基地内に設置されている日米共同情報分析組織（B I A C）を陸上自衛隊座間駐屯地内へ移転するため、令和 9 年度防衛省予算の概算要求において、既存施設の改修に係る経費を要求。
- 陸上自衛隊座間駐屯地内での運用開始は令和 1 3 年度頃の見込み。
概算要求の趣旨・概要は別紙 1 のとおり。

市からは、基地の機能強化・恒久化につながる施設整備は行わないこと、今後、より具体的な情報提供を行うことを求めました。

また、この件に関する相模原市長からのコメントは、別紙 2 のとおりです。

なお、本市としては、今後、要請などの対応についても早急に行う考えです。

問合せ先
基地対策課
電話 042-769-8207(直通)

趣 旨

- 我が国周辺における情報収集態勢・情報分析能力を強化するため、令和4年11月の米軍無人機MQ-9の海自鹿屋航空基地への一時展開を契機に**日米共同情報分析組織（BIAC（バイアック※））**を横田基地内に設置。
※Bilateral Information Analysis Cell
- BIACは、**日米の情報収集アセット**が取得した情報を共同で分析し、**日米間の情報収集・警戒監視・偵察（ISR）における協力関係の深化**に大きく貢献。
- 我が国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しく複雑なものとなり、ISR任務所要も増大している中、米軍が展開している無人機も含め、日米は、多くの情報収集アセットを運用してきており、**BIACの任務所要は今後より一層増えていく見込み**。
- こうした状況や閣僚級を含むこれまでの日米間の協議等を踏まえ、BIACの能力及び機能のより効果的な発揮という観点から、**陸自座間駐屯地内の既存施設内にBIACを移転**することとし、**令和9年度概算要求において、既存施設の改修に係る経費を要求**。

概 要

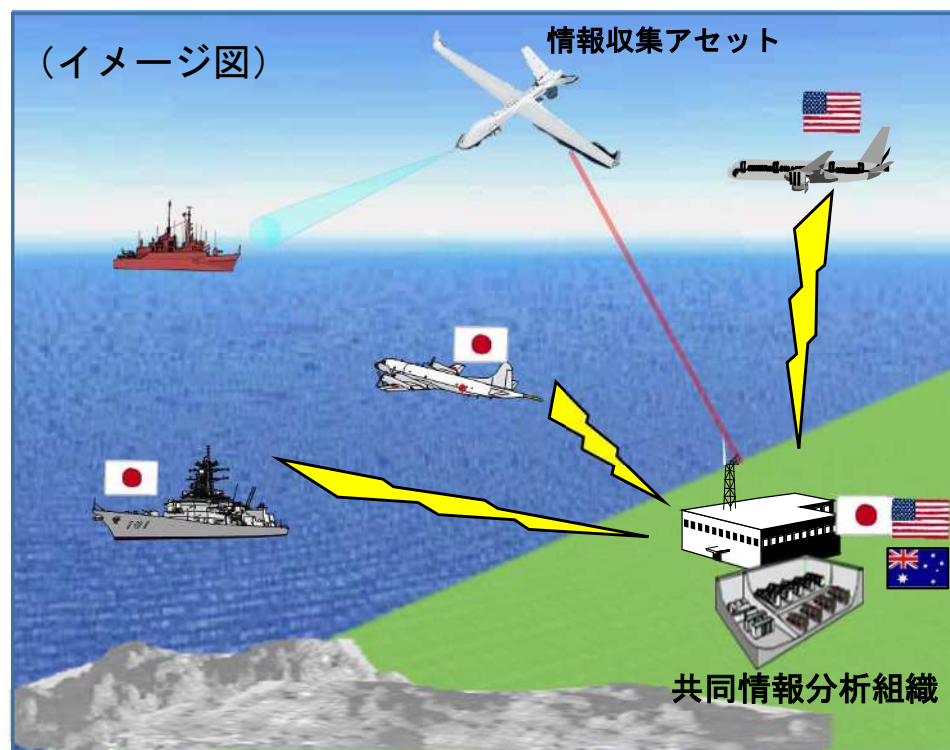
- 令和9年度概算要求において陸自座間駐屯地内の既存施設における改修に係る経費を要求
- BIACの運用開始は令和13年度頃の見込み

【現在運用中の横田基地内の日米共同情報分析組織（BIAC）の概要】

○任務：日米の情報収集アセットが収集した情報を日米共同で分析し、日米の各部隊に共有

○人数規模：日米豪合計30名程度（日米十数名ずつ、豪軍2名。任務所要に応じ変動する可能性あり）

※令和6年9月の日豪「2+2」において、豪軍要員の参加を公表



日米共同情報分析組織「BIAC」の陸上自衛隊座間駐屯地
(キャンプ座間)への移転に関する相模原市長のコメント

本日、国から、日米共同情報分析組織「BIAC」が横田基地から陸上自衛隊座間駐屯地（キャンプ座間）へ移転することについて説明を受けましたが、移転により、今後、基地の位置付けが高まり重要性が増すことになると、基地の機能強化・恒久化へつながる可能性や市民生活への影響が懸念されるところです。

本市といたしましては、国に対して、基地の機能強化・恒久化につながる施設整備は行わないこと、市民の皆様に不安を与えることのないよう丁寧な説明及び詳細な情報提供を行うことを求めています。

令和 8 年 8 月 3 1 日

相模原市長 本村 賢太郎